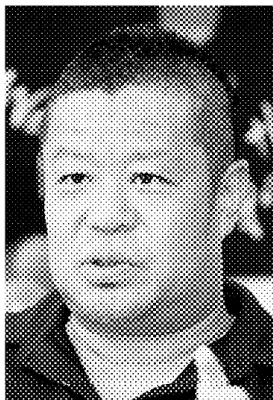


# アンモニアに勝機

## ダイヤエレHD

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス (HD) は2024年度にアンモニアエンジンの実証実験を始める。アンモニアは二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を排出せず火力発電などの燃料として期待されるが、自動車では未知の技術。電気自動車 (EV) シフトが進む状況で、点火コイルメーカーとして燃焼技術を実用化し、エンジンに火をともし続けられるのか。小野有理社長に勝算を聞いた。



来年度エンジン実証

### 社長 小野 有理氏

## 点火コイルで世界一へ

「アンモニアエンジン」をどのよう実証実験するのですか。アンモニア用点火コイルの試作機を24年3月にも、自動車や建設・農業機械メーカーに供給する。試作段階なのでアンモニアによる生活環境への影響がない場所で、メーカーと実験する。改良を続け、技術の進歩を適時公開していきたい。」

「18年に研究開発する『燃焼ラボ』を鳥取市に開設した。アンモニアは高い着火エネルギーが必要で、燃焼速度も遅い。技術者には、燃焼速度が速く、燃焼遅延が少なく、燃焼効率が高いことが必要で、燃焼速度が遅いのは、燃焼遅延が大きいと、燃焼効率が悪くなる。燃焼速度が速いのは、燃焼遅延が小さいと、燃焼効率が良くなる。燃焼速度が遅いのは、燃焼遅延が大きいと、燃焼効率が悪くなる。燃焼速度が速いのは、燃焼遅延が小さいと、燃焼効率が良くなる。」

## 存亡かけ実用化目指す

「アンモニアエンジンの実用化は、3年以内には実現する理由は、燃焼の可視化による解析や瞬時的な燃焼の制御が可能になるから。」  
 「アンモニアエンジン」は、アンモニア100%で安定燃焼を実現し、燃焼の可視化による解析や瞬時的な燃焼の制御が可能になるから。アンモニアエンジンの実用化は、3年以内には実現する理由は、燃焼の可視化による解析や瞬時的な燃焼の制御が可能になるから。アンモニアエンジンの実用化は、3年以内には実現する理由は、燃焼の可視化による解析や瞬時的な燃焼の制御が可能になるから。

### 技術の確かさ問われる

### 記者の目

世界の点火コイルメーカーは、自動車の電動化を受け、開発をやめるか投資を縮小している。しかし点火コイルにかける小野社長の信念は強い。アンモニア用を実用化できれば、ハイオク燃料とともに内燃機関を存続できる有望な技術革新となり、点火コイルで残存者利益を得られる。技術の確かさが、実証実験から問われる。 (大阪・田井茂)